



書
評

今日の耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科治療指針 第4版

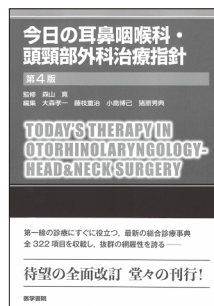
監修：森山 寛

編：大森孝一，藤枝重治，小島博己，猪原秀典

A5・頁736 2018年06月 定価：本体16,000円＋税

[ISBN978-4-260-03452-4] 医学書院 刊

＜書評者＞ 甲能直幸（佼成病院院長/杏林大特任教授・耳鼻咽喉科・頭頸科）



第一線の診療にすぐに役立つ，最新の総合診療事典として出版された本書は約700ページの中に322項目を収載し抜群の網羅性を誇り，実に読みやすく理解しやすい構成となっている。事典の本来の目的である調べたい項目をチェックするだけでなく，現在のこの領域での医療の状況を確認する目的で通読しても良い。まさに耳鼻咽喉科・頭頸部外科の最良の治療指針である。

総論として，患者の診かた（1章）や基本となる検査（2章）が記述されている。診療科の特殊性，専門性が再確認され，症状に合わせてどのように診断を進めるかをよく理解することができる。この領域の専門医のみならず，他科の医師にも非常に参考になると思われる。続いて3～8章では，本書の大部分を占める疾患の解説，治療方法，薬の使い方の具体例，予後，患者説明のポイントが領域別に，詳細かつ簡潔に記述されている。限られた紙面に，よくこれだけの情報をまとめたものだと感嘆する。著者たちの英知の結集である。要所に挿入された写真や図表も疾患の特徴，診断の要点などをまとめており，理解に役立つ。次の9章では，本領域で扱う疾患の大部分が感覚器であるがゆえの機能低下・損失に対する医療機器による機能の代償が記述されている。この分野の進歩は近年目覚ましいものがあるが，現状での最先端の機種が紹介されて

いる。そして10章で述べられているリハビリテーションも，機能回復には重要な医療であり，超高齢化社会がもたらす問題点でもある加齢による嚥下機能低下への対策も記述されている。すなわち疾患の治療のみならず，治療後の各種機能の保持に対する対応策の現状が解説されている。最後に付録として，研修カリキュラム，用語・手引き・診断基準，公的文書作成の補助が書かれている。至れり尽くせりである。

本書では項目の配置に工夫がなされており，症状に対する診断の進め方，疾患の治療法，続発する機能低下への対応，リハビリテーションと進んでいく。流れるように読み進むことができ，理解することができる。これが本事典の特徴であり，見事なアイデアである。この一冊で本領域で研修する医師に必要なとされる知識の全てが網羅されているし，耳鼻咽喉科専門医をめざす医師に必要な標準的な治療法も示されている。加えて，各項目では丁寧にしても要領よくポイントを押さえた解説がなされており，耳鼻咽喉科・頭頸部外科医となって45年が経過した評者にとっても非常に参考になり，ためになる一冊である。ハンディタイプで持ち運びに便利であり，診察スペースにチョコンと置いても邪魔にならない。今日からの臨床に自信を与えてくれる一冊であると思う。